

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2024/12/31	2025/5/30	2025/6/27	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	39,894.54	37,965.10	40,150.79	42,426.77	2024/7/11	25,621.96	2022/10/3
NYダウ	ドル	42,544.22	42,270.07	43,819.27	45,073.63	2024/12/4	28,660.94	2022/10/13
円/ドル	円	157.20	144.02	144.65	161.95	2024/7/3	127.23	2023/1/16

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～中東地政学的リスクの後退と半導体の需要拡大期待による米国株高を受けて上昇～

先週の日本株市場は、日経平均が+1,747.56円(+4.55%)、TOPIXが+69.28ポイント(+2.50%)となり、中東地政学的リスクの後退と半導体の需要拡大期待による米国株高を受けて上昇しました。業種別で見ると非鉄金属、その他製品、電気機器などの25業種が上昇した一方、鉱業、石油・石炭製品、不動産業などの8業種が下落しました。23日は、前日に米国がイランの核関連施設を攻撃したとの報道を受け、地政学的リスクの高まりが意識され下落しました。24日は、トランプ米大統領がイスラエルとイランが停戦したと自身のSNSに投稿したことや、FRB(米連邦準備理事会)のポウマン副議長が早期利下げに前向きな発言をしたことなどが好感されて反発しました。25日は、前日の米国ハイテク株高やFRBの利下げ期待の高まりが上昇要因として働いたものの、日銀の田村直樹審議委員が物価の上振れリスクについて発言したことで円高が進行したことが上値抑制要因に働き、ほぼ横ばい圏での推移となりました。26日は、生成AI(人工知能)の普及による半導体の需要拡大期待から、SOX(フィラデルフィア半導体株)指数が上昇したことを受け、半導体関連銘柄中心に買いが集まり続伸しました。27日は、前日の米国株式市場が上昇した流れを引き継ぎ、幅広い銘柄に買いが広がったことで4日続伸となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
6月30日	Mon	日本	鉱工業生産(前月比)	5月	▲1.1%
		中国	製造業PMI(購買担当者景気指数)	6月	49.5
		ドイツ	非製造業PMI	6月	50.3
7月1日	Tue	ドイツ	CPI(消費者物価指数)(前年比)	6月	+2.1%
		日本	日銀短観 大企業製造業景況感(現状)	4-6月期	12.0
		欧州	CPI(除食品・エネルギー・たばこ/前年比)	6月	+2.3%
		米国	ISM製造業景況指数	6月	48.5
7月2日	Wed	米国	JOLTS求人数	5月	+739.1万人
		欧州	失業率	5月	6.2%
		米国	ADP雇用統計	6月	+3.7万人
7月3日	Thu	米国	貿易収支	5月	▲616億ドル
			非農業部門雇用者数変化	6月	+13.9万人
			製造業受注(前月比)	5月	▲3.7%
7月4日	Fri	ドイツ	ISM非製造業景況指数	6月	49.9
			製造業受注(前月比)	5月	0.6%

決算発表予定 他	国内	決算発表 :	7/4 安川電
----------	----	--------	---------

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～米政策を巡る思惑に左右されつつも、日米景気の底堅さなどに支えられ、高値圏で推移～

今週の日本株市場は、米政策を巡る思惑に左右されつつも、日米景気の底堅さなどに支えられ、高値圏で推移するとみえます。米関税政策を巡り、トランプ米大統領が、日本との自動車貿易を巡る不満を表明し25%の追加関税を課す方針を示したことや、カナダとの貿易協定の停止を表明した一方、4-5カ国と通商合意を結んだと述べるなど、好悪両方の材料が報じられています。7月9日の上乗せ関税の停止期限が近づく中で、これら米関税政策を巡る報道が増加すると想定され、しばらくは関税交渉に関する報道に左右されるとみえます。日本では1日に日銀短観の6月調査が発表されますが、米国の関税政策を受けた企業景況感の悪化や設備投資計画の下方修正が想定範囲内に収まれば、国内景気の底堅さが評価され株価のサポート材料になるとみえます。また米国では、3日の非農業部門雇用者数変化など雇用関連統計の発表が相次ぎますが、緩やかな鈍化傾向を示しつつも想定範囲内に収まれば景気の底堅さが再認識されるとともに、FRBの利下げ再開期待が維持されリスク資産にとっては心地の良い状況が続くとみえます。ただし、日米ともに株価が高値圏にあり、米関税政策を巡る不確実性が残る中では一段の上値余地は限定的とみえます。その他の注目材料として、日本では30日の鉱工業生産、米国では1日のISM製造業景況指数、JOLTS求人数、3日のISM非製造業景況指数、欧州では1日のCPI、ドイツでは4日の製造業受注、中国では30日の製造業/非製造業PMIなどが挙げられます。

ALAMCO

朝日ライフ アセットマネジメント

URL: <https://www.alamco.co.jp>

商号等 : 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号

加入協会 : 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント(以下、「当社」といいます。))が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。